

税とこれからも。優しい社会へ

練馬区立大泉中学校 3年 岡本 由衣

「使い道 学んで納得 しっかり納税」これは、昨年私が書いた税の標語だ。税金を「できるだけ払いたくない。」「払わされている。」とと思っている大人と、未来の私へ向けた一句だった。そんな私がいるのは、今まで税に関心を持ち、学ぶ機会が多くあったからだろう。小学校6年生時の「税に関する絵はがきコンクール」から意識し始め、中学2年生だった昨年は、「税の標語作品展」がきっかけで税金の種類や使い道を調べた。更に、中学校の公民の授業では税金の役割と仕組みや身近な生活と税の関わりを知り、納税の意義を学んだ。しかし、私の親の世代が子供の頃は、今のように積極的な税金教育がなかったようで、それが税金への理解が消極的な理由なのだと思う。

そんな矢先、昨年5月にわが家は公共サービスの有りがた味を実感することとなった。運動会の練習中に私が意識を失い倒れてしまったのだ。先生がすぐに救急車を呼んでくれたので総合病院を受診し、じん速な処置を受けることができた。調べたところ、日本では無料で乗れる救急車だが、実際には1回の出動に約4万5千円の費用がかかっているそうだ。それは当然のように税金でまかなわれている。ところが、海外の多くの国では救急車利用は有料で、1回あたりアメリカでは約4万円、ドイツでは2～7万円かかり、フランスや中国では距離に応じて追加料金が発生するシステムだった。また、今年の夏休みは高校受験・進路と向き合う時間が多く、その過程で公立高校の教育費には1年で約106万円も税金が使われていることも学んだ。今通っている中学校も公立なので……。本当に、税金ありがとうございます！と言いたい。

どんな使い道に有りがた味を感じるかは、年代や家族構成、健康状態などによって違うし、もし災害が起きれば、至急に救済の対応が必要な地域が発生する。どんな場面でも、税金は私たちの「生きる」を支えてくれている制度なのだ。ところが、大人たちは恩恵を受ける程度を誰かと比べて不平等に感じたり、当たり前になり過ぎていて、有りがた味を忘れてしまっていないだろうか。私が払ったことがある税金は、お小遣いで払う消費税だけなのでまだ負担に感じないのかもしれない。でも、いつか「負担」に感じたら、それを安心・安全な社会を支える「責任」に変換できたらいいなと思う。

「税のこと 学んで変わる いつもの景色」これは、昨年の「税の標語作品展」で、一つ上の学生が応募した標語だ。私たちが日ごろ見ている景色は、税の仕組みや役割を知れば知るほど、優しい色に変わってゆくだろう。これからも積極的に税について学び、日常の生活の中でもその優しさに気づいてゆきたいと思う。めざせ「使い道 学んで納得 しっかり納税する私。」。